

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年2月26日(金)

### 《「せい」か、「おかげ」か》

今日は、福音(マタイ 5・20 26)だけでなく、第一朗読(エゼキエル 18・21 28)でも神様のみ旨が簡単明瞭に表されていると思います。第一朗読のエゼキエル預言者をとおして話された内容は何でしょうか。「今まで正しく生きてきたからと言って、油断をしてはいけません。」逆に「今までどんな罪を犯してきたとしても、本当に悔い改めるならば、神様は絶対見捨てることはない。」ということですよね。この第一朗読の『死ぬ』とか『生きる』という言葉は、この世の中のことではありません。いわゆる救いのことです。永遠の命を得られるか、得られないかの話をしているのです。

今日の福音では、初めの部分に「**あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさって**いなければ、**あなたがたは決して天の国に入ることができない。**」と書いてあります。私は福音を読んで黙想するとき、イエス様が教えてくださった御父のみ心に魅力を感じるがよくあります。本当にすごい方だ、と思います。イエス様は、今日の福音だけでなくいろいろなところで、御父のみ心がどのようなものか、よく話されています。たとえば、朝早くから仕事をした人と、終わるころに呼びかけられて働いた人に、全く同じ賃金を支払う人を神様のたとえにした話がありますね。しかし社会的な秤を基準にして考えてみれば、やはり最初に仕事を始めた人は悔しいでしょう。誰でもそのように思うでしょう。しかしイエス様を通して話された神様の、御父のみ心は、そうではありませんでした。

ある兄弟の話をします。二人の兄弟がいました。二人の父親はアルコール依存症でした。そのような環境の中で二人は育ち、兄は父親と同じようにアルコール依存症になってしまいました。しかし弟は、弁護士になりました。その兄弟の話がうわさになり、ある記者が取材をしました。「同じ環境で育ったのに、なぜこのように違うのでしょうか。」と。兄は「それは父のせいでしょう。父がアルコール依存症だったので、私は父の姿からアルコールを飲んで暴れることを習いました。そしていつの間にか、アルコールに頼る人生になりました。」と答えました。一方、弁護士になった弟は「それは、父のおかげです。父がアルコール依存症になり、同じような生き方はしたくないと思う環境を作ってくれたので、私は絶対父のような生き方はしないつもりで頑張ってきました。その結果、今の自分がいます。」と答えました。

同じ環境でも、いつも何かのせいにする人がいるし、何かのおかげだと思ふ人もいます。全く同じ条件ですが、受け取る人によって、それが「せい」になるか、「おかげ」になるか、が決まるのだと思います。神様は、どの人にも同じ条件を与えてくださいます。しかし、いつも否定的に「せい」にする人たちは、いつも否定的な道を歩みます。そして、いつも肯定的、希望的に考える人は、自分にはよくない条件に囲まれていても、それを「おかげ」として受け取るわけです。

皆様よく考えてみましょう。ご自分の人生を考えてみたら「せい」にしたことが多いでしょうか。それとも「おかげ」にしたことが多いでしょうか。その結果、今の皆様の状態があるのだと思います。

しかし、今まで少し間違えていたとしても、がっかりしないでください。今日の福音と第一朗読で読まれたように「今までは、少し足りなかったから、神様に顔を上げる資格はないと思ってきたけれど、これからはあなたが教えてくださった道を歩みたいです。」という強い願いとともに動けば、私達は自分でも気付かないうちに「おかげ」という言葉が癖になるのではないのでしょうか。

私もよく何かのせいにする癖がありました。皆様、何かのせいにするその癖から解放されなければならないことを、今日の福音をとおしてもう一回考えてみましょう。それを解決できれば皆様の心は自然に広くなると思います。寛大な心になると思います。憎むものが減ると思います。何かあった時に、正しくない反応を見せなくなると思います。

人間には、何かあったときに「あいつが悪い」と思う心が必ずあります。イエス様は今日の福音で、「自分の兄弟に『馬鹿』とか『愚か者』ということは、とんでもない罪になる。」とはっきりおっしゃっています。これは、私達を罪人にさせようとするイエス様のみ言葉ではありません。それによって犯される罪がどのくらい重いかを私達に教えてくださっているのです。だから、「何か供え物を捧げようとするとき、誰かが自分に反感を持っているようなかわりがあったならば、まず和解してから供え物をささげなさい。」とおっしゃっています。このような簡単な真理を身につけられれば、私たちは今日の第一朗読に書かれているように生きることができるのだらう、と私は思います。

さあ、今日の福音を通してもう一回イエス様に願いましょう。できるだけ明るく、そして希望的にこの人生を受け入れられるように、他人のことを見られるように願いましょう。

ありがとうございました。